2023-4-15

中国地方・奈良・京都～さくら巡り～その４(奈良)

山本 雅晴

奈良：3 月 30 日の午後２時過ぎに近鉄奈良駅に着き、ホテルに荷物を置いて吉城園・奈良公園・東大寺周辺を散策し、夕方に久しぶりに大仏殿に入場。この一帯は観光客で溢れていた。東南アジア系の外国人も目立った。**大仏殿の内庭**がこんなに桜が多くきれいな所とは知らなかった。写真 1、２

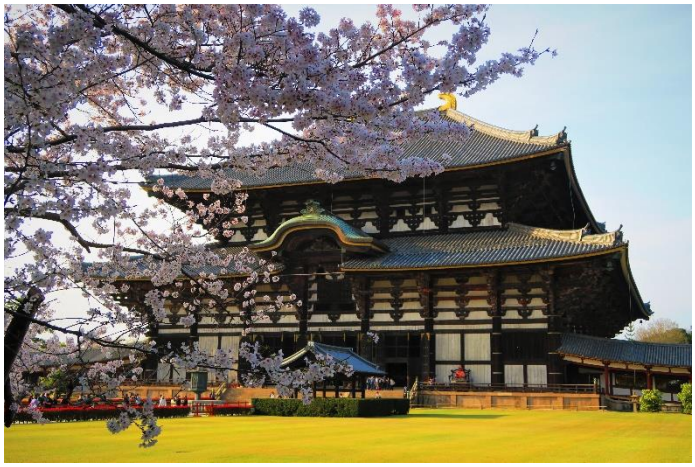

写真１　東大寺大仏殿と中庭

写真２　大仏殿中庭の西側廊

散策後、夕食はホテルの近くに散策前に予約しておいた小さなイタリアン・レストランでいただいた。10 人ほどで満席になるところで、２組の西洋人がいて、シェフとスマホの翻訳器を介して賑やかに雑談しながら夕食を楽しんでいた。

3 月 31 日：山の辺の道の南部ルートの一部は昨秋の紅葉のシーズンの晴天の日に歩き楽しい思いをした。鈴木直久さんにこの件を伝えたら、彼が全ルートを歩き天理から石上神宮→内山永久寺跡も良かったということを聞き、芭蕉の句もありさくらの季節に是非行って見たいと思い計画した。内山永久寺のことは全く知らなかったが、昨秋偶然に大阪の「藤田美術館」で永久寺旧蔵の国宝「両部大経感得図」二帖を見て初めて知った。ウィキペディアや国宝の本で調べてみると、「大寺院が、廃仏毀釈によって廃絶してしまった代表的な例であり、江戸時代には寺内の諸院が５８、知行 971 石あり、法隆寺に次ぐ寺院だった」と記されている。大和名所図絵にも記された観光名所で、芭蕉も訪れ「うち山やとざましらずの花ざかり」という句を残している。

近鉄駅前からバスで初めて天理駅前に行き天理教の宗教色が豊かな天理アーケード街を通り、**石上神宮**に着いた。9:40~10:10 曇り空でうす暗かった。ここは日本最古の神宮といわれ、国宝の七支刀（ななつさやのたち）も伝えられている。若冲の絵に描かれているような鶏が 40 羽位放し飼いされていた。

写真３　石上神宮の楼門

写真４　石上神宮の神鶏

→**内山永久寺跡** 10:20~10:50 芭蕉の句の石碑がある池のほとりの十数本のソメイヨシノはやや満開を過ぎてはいたが、当時の面影を伝えていた。しかし、これがなければ何もここに大寺院があったなどと思われない。

写真５　内山永久寺跡跡の芭蕉の句碑

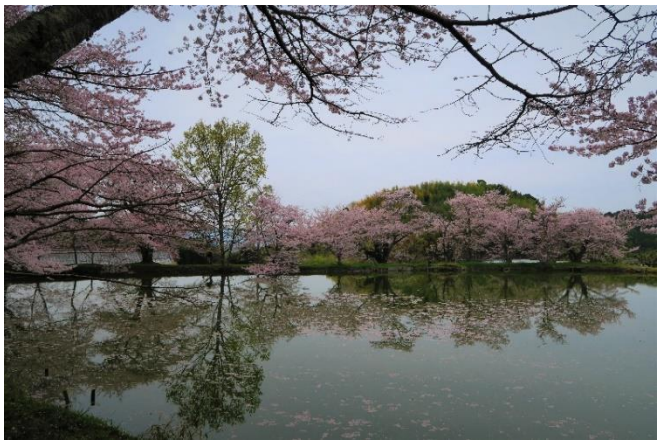

写真６　内山永久寺の浄土式庭園跡の池のほとり

内山永久寺の諸院があったと思われる広い平地には写真７に示したような柿の木畑が多数目に留まった。

山の辺の道の２～３の遺跡や寺社を巡ったが、長谷寺に行くため最寄りの JR 駅に向かった。

長谷寺は奈良在住の加藤元久さんに 20 年近く前に花の寺として訪問を勧められ桜の季節に２度訪れたことがある。前回訪れたのは 2016 年４月３日で白モクレンの大木が満開で各種の桜も見ごろだった。今回は日にち的には早いが白モクレンは無残な姿だったが、しだれ桜やソメイヨシノもやや満開は過ぎていたが綺麗だった。

写真７　内山永久寺跡の柿木畑

長谷寺は牡丹が有名だが桜の季節が最も見栄えがするように思う。庭も広く、変化に富んだ伽藍の配置であまり混まないので、ゆったりと鑑賞でき奈良の桜の名所として最も好きです。

写真８　本堂前の舞台から五重塔を臨む

写真９　本坊前の庭から国宝の本堂を臨む

蔵王堂の前の紀貫之の歌碑「人はいさ心も知らずふるさとは花ぞ昔の香ににほひける」

本堂近くの鐘楼横の松尾芭蕉の句碑「春の夜やこもり人床し堂のすみ」

４月１日：朝食前に興福寺近辺を散策し、朝食後に

万葉植物園 10:30~11:50 訪問した。午後に次の訪問地の京都に向かった。

写真１０　万葉植物園にて⇒